

100歳の女の人が、大切なものを高校生にあげました 長い間

使っていた絵の道具です

河北新報やさしい日本語ニュース 2024年8月7日

仙台市の吉田三千子さんは100歳です。長い間、日本画を描いてきました。

日本画は、アメリカやヨーロッパの絵とは違う描き方をします。絵に色をつける

道具も違います。近くに住んでいる人は、吉田さんを「日本画のおばあちゃん」

と呼んでいます。

吉田さんが日本画を勉強するようになったのは、50歳ぐらいの時です。子ど

もの頃から絵に興味があったので、絵を習いたいと思いました。それで、仙台市

にある日本画の教室に入りました。

吉田さんは教室で一生懸命、日本画を勉強しました。そして、少しずつ

上手に描けるようになりました。1年に2枚ぐらい描いて、絵の展覧会で、いろ

いろな人に見てもらいました。「とても上手な絵」に選ばれたこともありました。

こうして、吉田さんは50年ぐらい日本画を描いてきました。でも、目がだんだ

ん見えにくくなって、続けることが難しくなりました。2019年12月に

みやぎのくろうじん 宮城野区の老人ホーム（お年寄りだけが住む所）に入りました。家も壊すこと

になりました。そのため、家の中にあるたくさんの絵の道具を誰かにあげること

にしました。

よしだ 吉田さんの息子むすこの達郎たつろうさん(69歳さい)は「母ははが大切たいせつにしてきた物ものなので、仙台せんだいの若い人わかひとに使つかってもらいたい」と思おもいました。それで、仙台市せんだいしの宮城野高みやぎのこうこう校こうにあげることきを決きめました。7月がつ11日にち、達郎たつろうさんはたたくさんの道具どうぐを車くるまで運はこんで、高こう校こうに渡わたしました。

いがらしひな 五十嵐陽菜さいさん(17歳さい)は宮城野高みやぎのこうこう校こうで絵えを勉べん強きょうしています。「日本画にほんがの道どう具ぐはたか高いです。だから、とてもうれしいです。長い間ながあいだ、絵えをかかつづつづけた吉田よしださんはすごいと思おもいます」と話はなしました。

よしだ 吉田よしださんは絵えをかかくことで、大切たいせつな友ともだちができました。「友ともだちとたたくさん話はなしたことや、バーベキューをしたことが一番いちばん楽たのしかったです」と言いいました。



【河北新報社提供】



やってみましょう

ぶんよ 文を読んで、ただ正しいものに○、ただ正しくないものに×を書かいてください。

- ① () にほんが 日本画は、アメリカやヨーロッパのえとはちが ちが か かた 違う描き方をします。
- ② () よしだ 吉田さんはこ 子どものころから、え べんきょう 絵の勉強をしていました。
- ③ () よしだ 吉田さんのむすこ 息子は、かあ 母さんのたいせつ たいせつ え どうぐ 大切な絵の道具を、わか ひと 若い人に
つか 使ってもらいたいとおも 思いました。
- ④ () いがらし 五十嵐さんは、にほんが 日本画のどうぐ 道具をもらったので、とてもうれしいです。



書きましょう

よしだ みちこ 吉田三千子さんは _____ さい 歳です。ながい _____、_____ をか 描いてきました。

_____ のてんらんかい 展覧会で、「とても _____ なえ 絵」に _____ こともありました。

でも、め 目が _____ なって、つづ 続けることが _____ なりました。それで、

たくさんのえ 絵の _____ をみやぎの 宮城野 _____ に _____ ことにしました。



話しましょう

1. あなたはえ 絵を描いたり、み 見たりすることがす 好きですか。けしき 景色やはな 花やひと 人のえ 絵
など、どんなしゅるい 種類のえ 絵がす 好きですか。

2. いま 今までみ 見たえ 絵の中、とてもよ 良かったと思 思うえ 絵があつたら、しょうかい 紹介してくだ
さい。